

日本ベーシック社長  
勝浦雄一さん



かつら・ゆういち 富城  
興生まれ。1971年慶大法  
卒、三菱レイヨンに入社。広  
報課長、クリンスイ部長など  
を経て退職し、2005年に  
浄水装置製造の日本ベーシッ  
クを設立した。  
の販売実績がある。  
従来も台風に見舞われた  
途上国に製品を送るなど支  
援活動を手がけたが、バン  
グラデシユでは現地企業と  
組んで本格展開を目指す。  
事業モデルはこうだ。1時

自転車こいで飲み水に

勝浦のプランは国際協力  
機構(JICA)の支援事  
業に認定され、最大で今年  
5000万円の補助が出  
る。年明け早々、バングラ  
デシユの首都ダッカに約2  
週間滞在した勝浦は地元の  
水道局や水関連の業者を巡  
り、街にあふれる自転車タ  
クシーの経営実態を調べ  
た。3月の次回訪問では復  
数の水源池を回り、水質な  
どを詳細に分析する。  
勝浦は三菱レイヨンで家  
庭用浄水器「クリンスイ」  
事業に立ち上げから約20年  
携わった。55歳の役職定年  
を迎えて「発展途上国の子  
供たちにも、きれいな水を  
飲ませたい」と独立を決意。  
2005年に日本ベーシッ  
クを設立し、災害時にプー  
ルや池の水などを飲用に  
する自転車一体型の浄水器  
を雇って川や池の近くでペ  
ダルをこがせる。できた水  
はその場で安く販売する。  
価格は1リットルあたり円換算

貧困救う浄化事業に挑戦

で1円程度とし、主に貧民  
街を巡回する。洗面器やバ  
ケツなどに量り売りする方  
式を考えている。2年目で  
100台、3年目で300  
台の稼働を目指す。「将来  
は周辺のミャンマーやイン  
ドなどにも事業を広げた  
い」と勝浦は話す。  
国内でも昨春の東日本大  
震災以降、災害用の浄水器  
への関心が高まっている。  
同社には横浜市の学校法人  
や東京都公園協会などから  
自転車一体型の納入依頼が  
相次いだ。普段は家庭用の  
浄水器で、災害時には手動  
ポンプで風呂水などを浄化  
できる小型器(5万700  
0円)にも注文が来る。  
「被災地や途上国への支  
援を通じて少しでも子供た  
ちの命を守れたら」。そう  
話す勝浦の表情は力強さに  
あふれていた。 敬称略